三国中学校だより

【校訓】誠心　自主　創造

― 自ら想像し、考え、行動する生徒の育成―

合言葉 ： 進取果敢

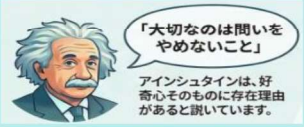
小郡市立三国中学校
第 27 号
令和8年3月24日発行
文責　校長 米倉佳美

有意義な春休みに！ ～4月のスタートに備えましょう～

３月２４日（火）は修了式でした。この一年間、学習や行事など、日々の学校生活の中で様々な経験を重ね、確かな成長を見せてくれました。うまくいったことも思い通りにいかなかったことも、すべてが大切な学びです。明日から１３日間の春休みとなります。新しい学年を迎えるにあたり、自分の目標を静かに見つめ直したり、これまでの生活を振り返ったりするよい機会にもなります。新年度のスタートを気持ちよく迎えられるよう、生活のリズムを大切にしながら過ごしてほしいと思います。修了式では、私から次のような話をしました。

今年一年を振り返ると、社会の変化のスピードはますます速くなり、未来を正確に予測することが難しい時代に、みなさんと共に私たちも生きています。AI の進化、国際情勢の変化、働き方の多様化など、**10 年後の世界**がどうなっているか、誰も断言することはできません。しかし、世の中は何らかの変化を確実に遂げながら、今のこの瞬間も進んでいっているはずです。卒業式のＰＴＡ会長さんの祝辞の中にも**「私が中学を卒業する時、現在の職業に就くなんて想像すらしていませんでした。それは、当時には存在しなかった職業だったからです。」**というお話がありました。みなさんにも、そのように語る未来が待っているのではないかと思います。このような時代の流れの中で、みなさんはどのような社会を創りどのように生きていきたいと考えますか。

物理学者の**アルベルト・アインシュタイン**、その名を知らない人はいないと思います。そのアインシュタインの言葉に**「大切なのは問いをもつのをやめないことだ。好奇心は、それ自体に存在理由がある」**という名言があります。



伝えたいのは、みなさんに**「疑問」や「問い」をもって学んでほしい**ということです。今は生成 AI を使えば、知識や、もっともらしい答えが、たやすく手に入る時代です。だからこそ、これから価値をもつのは、答えを知っていること以上に、「どうしてそうなるのか？」「本当にそうなのか？」と「問い」をもって**主体的に調べ、考え、深く理解しようとする学び**だと思うのです。

では、今からみなさんに７つの「問い」を投げかけたいと思います。心の中で、気になる「問い」を一つ選んでみてください。

① なぜ言葉は、人の心を動かしたり、時に人の行動や人生を変えたりしてしまうほどの力をもつのだろう。
② どうして世界には、立場によって「正しさ」が変わるような出来事が生まれるのだろう。
③ 体を動かすことが、どうして心の状態にまで影響を与えるのだろう。
④ 同じ曲でも、演奏者や聴く人によって感じ方が大きく変わるのはなぜだろう。
⑤ 「美しい」と感じる基準が、人によってこんなにも違うのはなぜだろう。
⑥ 人の暮らしをより良くする「工夫」は、どのように生まれてくるのだろう。
⑦ なぜ人は、誰かのために行動すると、自分の心が満たされることがあるのだろう。

「問い」を一つ選ぶことができたでしょうか。その「問い」が心に残ったのには、きっと理由があります。人は、**自分とどこかでつながる「問い」**に惹かれるものです。そのつながりに気づくことこそが、主体的な学びの始まりです。

そして、**その「問い」について今日からできること**は何でしょうか。本を手に取ってみることかもしれません。友達や先生に聞いてみることかもしれません。あるいは、ただ心の中で、もう少し考えてみようと思うだけかもしれませんが、それも立派な一歩です。そのどれもがみなさんの学びを前へ進めるものとなっていきます。

学校関係者評価結果を受けた改善について ～今年度の振り返りと次年度へ向けて～

Ⅰ　未来へ向かう「心」の育成について

評 価 結 果	改善の具体的方策
○「いだく・いどむ・いかす」を意識した授業が具体的な目標として浸透している。 ●子どもたちが将来の夢や希望を抱くことができるよう導いてほしい。	・既存の「いだく・いどむ・いかす」を、具体的な職業観や将来設計に結びつける。外部講師や地域人材を活用し、子どもたちが「未来の自分」を具体的にイメージできる機会を増やす。

Ⅱ　生きて働く「知」の育成について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○低位層の子どもたちを引き上げる継続的な指導が行われている。 ●クラスや教科によって「分かりやすさ」に差があるので先生方の連携を密にしてほしい。	・オープンクラスを引き続き充実させ、「分かりやすい」と評価の高い授業を互いに見学し、言語活動の構成や板書の工夫を共有する。教科横断的な研修を行い、指導の標準化を図る。

Ⅲ　健康で逞しい「体」の育成について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○睡眠や食事、生活習慣といった「生きる基盤」を整える指導が、数値的な伸びとして表れている。 ●生徒一人ひとりが自身で守る力、考える力、防ぐ力を身に付けられるように継続して指導してほしい。	・養護教諭や外部専門家と連携し、性教育、睡眠、栄養、ホルモンについて「なぜ大切か」の根拠を科学的に学ぶ機会を増やす。自分自身の体への興味・関心を高める。

Ⅳ　地域とともにある学校づくりについて

評　価　結　果	改善の具体的方策
○「地域窓口の一本化」による情報共有や手続きの効率化が、機能的な仕組みとして素晴らしい。 ●地域や校区の行事にできるだけ参加してたくさんの体験を積んでほしい。	・既存の行事に参加するだけでなく、生徒が「自分たちから始まる伝統」を企画・提案するなど、地域と協働で新しいイベントを作り上げる過程を模索する。

Ⅴ　ICT活用力の育成について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○未知の領域であるICT活用について、確実に浸透してきている。 ●ICTの積極的な活用と併せて情報モラル教育を充実してほしい。	・教師主導の活用だけでなく、生徒から「こんな使い方がしたい」という意見を吸い上げる機会をつくる。

Ⅵ　個に応じた学びの充実について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○特別支援が必要な生徒や、学習に課題を抱える生徒など、一人ひとりの学びを大切にした授業づくりができている。 ●学校内だけでなく、専門機関や家庭とのより密な連携を図ってほしい。	・学年内での情報共有をさらに効率化し、SCやSSW、外部専門機関との連携ルートを明確にするとともに、家庭との役割分担を明確にする。

Ⅶ　教職員の資質向上の推進について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○人材育成に向けた取組がしっかりなされており、それが教職員の資質向上につながっている。 ●OJT研修やオープンクラスを充実させるための時間的余裕を取る必要がある。	・長時間の会議を精査し、「ミニ公開授業」や「事例検討会」の設定を検討する。ICTや学習ログを活用したデータに基づく生徒理解を研修の柱に据える。

Ⅷ　小中9年間を見通した指導体制の充実について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○小中で統一目標を定められたことで、より一層充実がはかれる。 ●小中のシームレスな移行ができるよう、相互の情報交換と、子ども達の体験を実現してほしい。	・中学校の教員が小学校で授業を行う、あるいは小6の児童が中学校の授業・部活動を「体験」する機会を検討する。

Ⅸ　働き方改革の推進について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○C4th 等の校務支援システムの導入が進み、業務効率化に向けた一歩を踏み出している。 ●業務の現状を把握し問題点を特定して、無駄や類似業務の無い業務改善を図ることが必要。	・C4th 活用のメリットを全職員で再確認し、類似業務や無駄な会議、紙の資料を廃止する。「この業務は本当に必要か？」を全体で考察しながらスリム化を進める。

Ⅹ　人権・同和教育の啓発推進について

評　価　結　果	改善の具体的方策
○長年の同和教育の啓発推進のおかげで、人権尊重を重んじる土壌ができている。 ●SNS 上のトラブルを早期にキャッチする仕組みが不足している。 ●人権学習参観や懇談会への参加率が低い。	・従来の講演形式だけでなく、SNS の具体事例を親子で考えるワークショップなど、保護者が「自分事」として捉えられるプログラムを開発し、参加率向上を図る。

保護者のみなさま、今年度も本校の教育にご理解、ご協力いただきありがとうございました。
保護者のみなさまに温かく見守っていただき、子どもたちも行事を終えるたびに大きく成長し、充実した学校生活を送ることができました。これからも保護者のみなさまや地域のみなさまとともに、よりよい学校を築いてまいりたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。